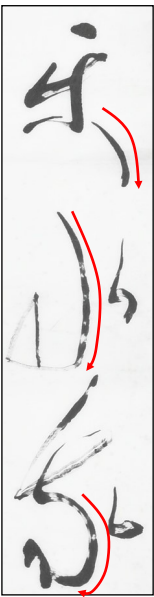
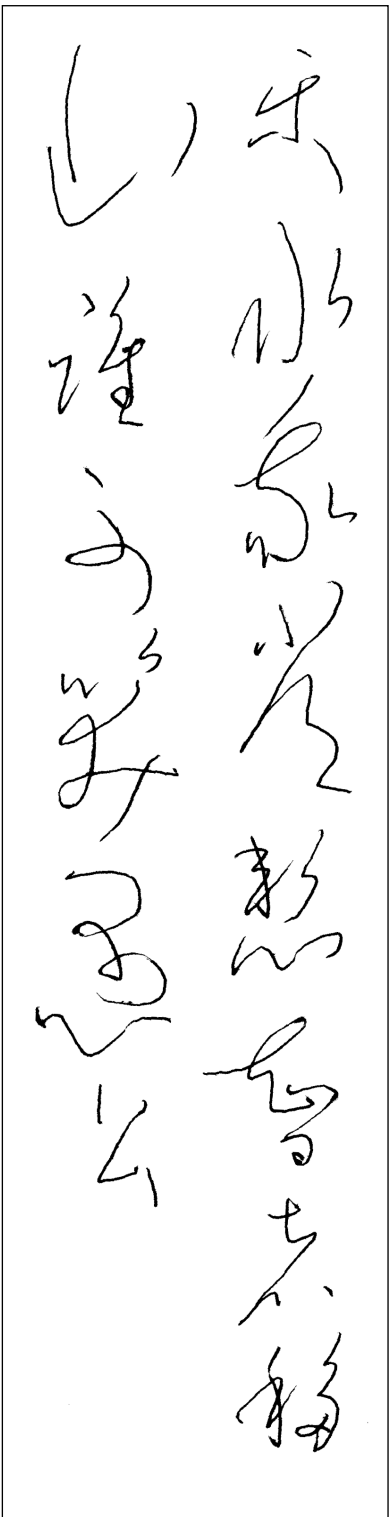


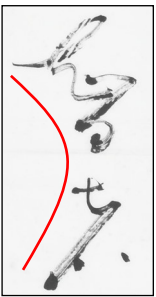


楽 水 我 常 慙 智 者 移
山 誰 不 笑 愚 公



「楽」の最終画の右下がりに対応した「水我」の字形は味わい深い。

とても清らかで伸びやかな線で書き始めている。しっとりとして落ち着いた筆の運びは無理がなく自然な美しさを表現している。



「智」の最終画の右下がりに対応した「水我」の字形は味わい深い。

この二つの字の字形と字配りは、行の流れとつながりを学ぶという点で、わかりやすい実例と言える。「智」の一目目を思いっきり左に張り出してはいるが、この字の重心は右側にある。「者」の字は逆に左下に張り出しているが、これも重心は右にある。動きは大きい安定感がある。



二行目の頭の字で画数も少なく、勢いのある筆の運びで一気に書いている。特に一画目の縦画は象徴的である。右に筆を傾けて左に膨らむように書いて「楽」に対応させている。



「我」の最終画の右下がりに対応した「水我」の字形は味わい深い。

墨継ぎからの筆の動きは、細かい筆使いの変化というよりリズムミカルな筆の運びによる線質の変化で表現されている。特に「不」の最終画は本来ここまで伸ばす必要はないのだが、ねじれた筆による線質の変化が魅力的で見えて引き込まれてしまいそうになる。

思い切った筆使いの変化とリズムミカルな筆の運びが味わい深い魅力を生んでいて充実した作品になっている。草書中心であるため字形の変化を大胆に取ることが難しい中、リズムに乗った筆の運びによる表現が生き生きとした味わいを見せている。草書ではあるがそれぞれが単体で連綿がない。字形や筆の流れによる行のつながりが連綿に変わる流れを感じさせている。淀みのない筆の運びを心掛けて書いてみてほしい。



「愚」の最終画の右下がりに対応した「水我」の字形は味わい深い。

最後の部分だが、草書の字形の面白さが筆使いの変化とマッチして大きな筆の運動と共に魅力いっぱいになっている。特に「愚」は勢いよく筆を回転させていて渦巻のような勢いを感じさせていて見事だ。最後の「公」の字で収めているが、この字ひとつで全体がきれいにまとまっている。